

淡水魚増殖試験

養殖技術の指導・普及

山根恭道・清川智之・中村幹雄・内田浩・福井克也・重本欣史

県内の内水面養殖業における養魚・魚病指導を行った。また、魚病発生時には病魚検査・分離病原菌の薬剤感受性試験等を行った。その結果をもとに、治療・対策方法並びに水産用医薬品の適正使用等について指導を行った。

1. 魚病の検査方法

魚病検査は養殖漁業者等により持ち込まれるか、または現地調査で得た検体魚について行った。検査内容は聞き取り、魚体外部、内部の肉眼観察、検鏡観察、および細菌分離である。分離菌の薬剤感受性検査は病魚検査により分離された菌について、必要に応じてディスク法により実施した。

2. 魚病発生状況

魚病の発生状況を表1に示した。

これによるとアユとヤマメが主体であり、その他ヤマトシジミとコノシロの大量斃死が発生した。

アユは羽須美村アユ飼育実証試験で、ヤマトシジミは宍道湖におけるシジミ大量斃死対策緊急調査で報告するため、ここでは島根県内および近県におけるマス類の養殖及び魚病の発生状況に付いて報告する。

表1. 平成9年度魚病発生及び調査・指導状況

発生月日	魚種	場所	魚病名	対策及び指導
4/11	ヤマメ	石見町	細菌性鰓病	塩水浴効果なくパラザンで効果あり
5/12	コイ	出雲市	カラムナリス病	パラザンで効果あり
26	アユ	神戸川漁協	冷水病	給餌量と給餌時間の改善
27	アユ	羽須美村		養魚指導
29	ヤマメ	弥栄村	不明	腎肥大、眼球発赤、腹空内壁の鬱血、鰓貧血
6/2	アユ	羽須美村	冷水病	飼育環境の改善
10	アユ	羽須美村	冷水病	〃
10~11	ヤマメ	匹見町		マス類講習会
16	コノシロ	宍道湖	不明	別資料参照
18	コノシロ	宍道湖	不明	別資料参照
24	アユ	羽須美村	冷水病	アクアフェン投与
25	アユ	羽須美村	冷水病	アクアフェン投与・飼育環境改善
27	アユ	羽須美村	冷水病	アクアフェン投与
7/13	ヤマメ	柿木村	BKD	広島大学の診断による
22	アユ	羽須美村	細菌性鰓病	塩水浴
25	アユ	羽須美村		魚病指導
8/18	シジミ	宍道湖	不明	へい死状況調査
21	シジミ	宍道湖		〃
29	コイ	佐田町	運動性エロモナス病	パラザンで効果あり
9/4	キンギョ	斐川町	エロモナス病	アクアフェンで効果あり
10/25	コイ	安来市	環境悪化	改修による
21	アサリ	美保関町	環境悪化	低塩分によるへい死
11/6	ヤマメ	石見町	カラムナリス病	テラマイシンで効果あり
28	シジミ	宍道湖		へい死状況調査
12/1~19	シジミ	宍道湖		〃

県内におけるマス類の魚病発生状況に付いて

近年せつそう病の発生件数がほとんど見られなくなってきた。

これは発生が無くなったわけではなく、例年この病気が発生する事から発生した場合、養殖業者が独断で処理するのと、卵の消毒（ヨウド剤：商品名イソジン）が徹底されてきたためと考えられる。

近年発生が見られる病気としてはBKDであり、前年度に引き続き今年度も発生が見られた。

前年度BKDの発生が見られた業者は、今年度BKDが発生した業者から発眼卵を購入しており、この業者の親魚がBKDに感染しているためと断定した。

感染経路については近年広島より親魚を更新しており、この親魚により病原菌を持ち込んだものと考えられる。

対策としては親魚を全数食用として廃棄し、稚魚は全て焼却処分した。

その他に弥栄村で原因不明の斃死が発生し、検査を実施したが細菌などは確認されなかった。

しかし症状から判断するとシュウドモナスあるいはウイルス（IHV）ではないかと考えられる。